昭和60年11月11日第三種郵便物認可　毎月１回１日発行

HOLSTEIN
ホルスタイン通信

2014-12

平成26年12月１日発行　通巻第７２８号
発行所　北海道ホルスタイン農業協同組合
〒001-8555 札幌市北区北15条西5丁目
電話 011-726-3111 FAX 011-726-3135
ホームページアドレス http://www.holstein.or.jp
発行人　専務理事　齋　藤　眞　澄
編集者　参　事　藤　澤　義　美

主な項目

◇　国際応用家畜遺伝学会に出席して　……　３頁
◇　第25回組合員女性研修会　……　７頁
《連載：〈第14回全共北海道大会に想いを込めて‥９頁〉》

2014年共進会ジャッジ研修会

訓子府町　北見管内畜産総合施設において開催

乳牛改良において共進会が果たす役割は極めて大きく、当組合では、審査眼の統一と審査技術の向上を図ることを目的として、共進会ジャッジ研修会を開催しております。

本年度は去る10月15日㈬に訓子府町 北見管内畜産総合施設において、北見地方ホルスタイン改良同志会、ホクレン農業協同組合連合会北見支所の後援により開催いたしました。

当組合共進会認定審査員22名を中心に、一般受講者（過去５年以内に管内クラスの審査経験者）20名、北海道ホルスタイン改良協議会推薦者（５月１日に安平町で開催された共進会ジャッジングスクールで、過年度の成績を含めた成績優秀者）２名の、計44名が出席いたしました。

開会にともない、小椋副組合長が挨拶した後、後援団体を代表して北見地方ホルスタイン改良同志会の上野元一会長より歓迎の挨拶を頂き、審査実技パネラーとして大樹町　木村　博文氏、中標津町 久保　剛氏、当組合審査部 小泉次長の３名と、セミナーを担当する審査部 千葉部長が紹介されました。

審査実技研修

セミナー「ホルスタイン種審査標準による審査眼の統一」講師は千葉部長

審査実技研修

セミナーでは「ホルスタイン種審査標準による審査眼の統一」と題し、体格審査における配点とその評価基準、また好ましい点、好ましくない点について、スライドを用いて解説いたしました。

その後の実技研修では、審査部 千葉部長が討論委員長を担当し、未経産１クラス、経産２クラスについて、それぞれ指名された受講者の代表４名による序列発表と講評が行われ、最後にパネラーの３氏が各クラスの序列付けと講評を行いました。また、この研修会は、「序列の成績が優秀である」に加え、審査講評の内容についても研修の対象となっており、受講者全員の真剣に取組む姿勢が窺えました。

閉会に当たり、当組合理事の橋本経済企画委員長より「後援団体と受講者の方々にお礼と感謝を申し上げ、更なる活躍を期待いたします。」との挨拶をもって、研修会は盛会裏に終了いたしました。

（審査部企画課技師　松井）

2014年共進会ジャッジ研修会受講者　〔敬称略〕

	市町村	氏　名			市町村	氏　名	
認定	恵庭市	中川尚人		対象	北広島市	岩田政彦	☆
〃	恵庭市	福屋栄人		〃	八雲町	舟橋秀貴	
〃	岩見沢市	瀬能剛		〃	帯広市	吉川要	☆
〃	帯広市	野原幸治		〃	清水町	浅野典英	
〃	帯広市	杉浦尚		〃	清水町	大久保大輔	
〃	清水町	松原秀雄		〃	上士幌町	吉田智貴	☆
〃	上士幌町	小椋茂敏		〃	本別町	星崎政博	
〃	大樹町	木村博文	パネラー	〃	陸別町	編田尚弘	☆
〃	釧路市	成田純哉		〃	更別村	天野洋一	☆
〃	鶴居村	松井俊治	☆	〃	広尾町	佐藤孝一	☆
〃	別海町	山田博和	☆	〃	弟子屈町	坪井泰憲	
〃	中標津町	久保剛	パネラー	〃	根室市	武隈昭博	☆
〃	G北海道	人見智亮		〃	別海町	二瓶義則	
〃	十勝ＡＩ	山口寿典	☆	〃	北見市	上野元一	
〃	十勝ＡＩ	児玉辰司	☆	〃	G北海道	藤田功	
〃	ＡＢＳ	高橋忠司		〃	G北海道	吉田潤嗣	
〃	ＬＩＡＪ	福屋茂生		〃	G北海道	間木野尚司	
〃	アルタＪ	細野淳		〃	十勝AI	松浦久美子	
〃	ホル農協	千葉義博	討論委員長	〃	ＡＢＳ	竹田秀臣	
〃	ホル農協	藤澤義美		〃	ホル農協	稲山智明	
〃	ホル農協	小泉俊裕	パネラー	推薦	弟子屈町	坪井秀明	
〃	ホル農協	田井道広		〃	中標津町	中川将	

認定：当組合認定審査員、対象：受講対象者（過去５年以内に管内クラスの審査経験者）
推薦：北海道ホルスタイン改良協議会推薦者、☆印は成績優秀者

国際応用家畜遺伝学会第10回大会(10thWCGALP)に出席して

◇ 第10回大会がバンクーバーで開催 ◇

国際応用家畜遺伝学会（WCGALP）は、４年ごとに世界を廻りながら開催される国際専門学会です。この学会の特徴は、実際の畜産業の中で利用される遺伝評価の理論や解法、それらを応用した選抜のシミュレーションや実際の選抜（改良）の成果など、多くが実践的であり、すぐに酪農の現場で応用可能な研究が発表されます。そのため、私たちのように乳牛改良の現場に携わる技術者にとっては、最新の研究や技術の知見を得るうえで非常に重要な学会といえます。

前回の第９回大会は、2010年にドイツのライプチッヒで開催されました。丁度、その１年前に米国AIPLから乳牛のゲノミック評価値が公表されたこともあり、先鞭を切って乳牛のゲノミック研究が非常に多く発表されました。また、今まで遺伝子を直接見つけることで家畜を改良しようとするグループもありましたが、ゲノム解析等の分子遺伝学の研究は、統計学や集団遺伝学のバックアップがなくては実際の選抜や遺伝改良になかなか応用できないことが認識された時期でもありました。そんなこともあり、第９回大会は、集団遺伝学の利用価値が見直された大会でもありました。

そして、今年の第10回大会は、８月17日から22日の１週間、バンクーバー市街のホテル、ザ ウエスティン ベイショアで開催されました。参加者は1,562名（内、学生が260名）、たぶん過去最大の規模だと思います。日本からは、東北大学、帯広畜産大学、家畜改良センター、農研機構および民間団体（GH、ホル農協等）から合計で20名程度が参加したと推測されます。というのも、本大会では出席者名簿が配布されなかったため、具体的な出席者が不明だからです。

◇ 研究発表は949題 ◇

本大会の口頭発表とポスター発表を分類し、表１に示しました。研究発表の件数は、口頭発表で388題、ポスター発表で561題、合計949題でした。ゲノミック研究は、乳牛のみならず多くの家畜・品種において実用化に向けた発表が多数ありました。また、乳牛の育種に関する発表は「家畜別の育種」を見ると80題にすぎませんが、「遺伝改良プログラム」、「経済形質の遺伝」および「方法とツール」に分類された項目でも乳牛を題材にした研究が多数発表され、それらも合計すれば200題以上の発表があったと思います。なお、小職は大会期間中の19日の午前の時間帯にポスターによる発表を行いました。その内容は、ホルスタインの繁殖性に関係する遺伝子が泌乳能力や分娩能力とどんな関係があるかを調査した研究です。

◇ リファレンス集団の利用と信頼度の向上 ◇

ゲノミック評価の分野では、信頼度を向上させる研究発表が目立ちました。リファレンス集団とは、SNP検査済でかつ検定記録等の表現型値から推定された育種価（EBV）を同時に持つ集団です。ツーステップ法（２段階法）によるゲノミック評価では、まず通常の遺伝評価を実施して検定や審査の記録からEBVを推定し、次にEBVとSNPパターンの関連性から、EBVが分からなくてもSNPパターンからEBVを間接的に推定します。SNPパターンから間接的に予測するEBVのことを特にゲノミック評価値と言います。

リファレンス集団は、ツーステップ法において必要となる考え方です。このリファレンス集団を大きくすることは、信頼度の向上につながります。北米のホルスタインのように大きなリファレンス集団を獲得できれば、何の問題もないのですが、もとから集団が小さい品種ではリファレンス集団を簡単に大きくできません。異なる系統や異なる品種を加えたリファレンス集団を利用し、ゲノミック評価値の信頼度がどのように影響するかを調査した報告が幾つかありました。結果としては、血縁関係のない集団を加えてリファレンス集団を大きくしても、ゲノミック評価値の信頼度はほとんど変化しないことがわかりました。一方、ゲノミック評価する個体と血縁関係がある個体をリファレンス集団に加えた場合は、信頼度が向上するとのことです。その他として血縁情報の活用、遺伝評価モデルの解法、さらにSNP情報量を増やすなど種々の方法が検討されていますが、信頼度の向上は、どれも数パーセントに留まり、信頼度を大きく向上させる手法は現段階の研究ではみつかっていないようです。

表１．口頭発表（一般講演とシンポジューム）およびポスター発表の集計

	口頭発表		ポスター発表		件数合計
	番 号	件数	番 号	件数	
総合講演		5		0	5
遺伝改良プログラム					
1 育種目標、選抜計画の経済性、選抜理論の発展	001-026	26	384-410	27	53
2 過酷な環境下における選抜、家畜の遺伝資源の管理	027-052	26	411-450	40	66
3 分子レベルの情報を利用した選抜	053-087	35	451-515	65	100
経済形質の遺伝					
4 抗病性	088-108	21	516-551	36	57
5 飼料要求量と飼料効率	109-125	17	552-583	32	49
6 成長と発育	126-136	11	584-608	25	36
7 泌乳形質、泌乳パターン	137-145	9	609-624	16	25
8 繁殖性	146-156	11	625-650	26	37
方法とツール					
9 生物情報科学	157-174	18	651-658	8	26
10 ゲノム配列の決定	175-183	9	659-668	10	19
11 QTLと遺伝子のマッピングにおける統計とゲノミックツール	184-201	18	669-685	17	35
12 統計手法-線形と非線型モデル	202-221	20	686-708	23	43
統計（スペシャル トピックス）					
13 教育とトレーニング	222-231	10		0	10
家畜別の育種					
14 肉用牛	232-260	29	709-771	63	92
15 水産養殖の生物種における育種	261-275	15	772-789	18	33
16 愛玩動物	276-284	9	790-798	9	18
17 乳用牛	285-313	29	799-849	51	80
18 家禽	314-331	18	850-868	19	37
19 緬山羊	332-354	23	869-915	47	70
20 豚	355-383	29	916-944	29	58
合 計		388		561	949

写真１：ポスター発表のようす
文字通り、ボード（壁材）にポスターを張るのが通常であるが、今回は液晶ディスプレーを利用して発表が行われた。

◇ ワンステップ評価の最前線 ◇

日本のゲノミック評価はツーステップ法で解くGBLUP法です。そのため、信頼度の向上には大きなリファレンス集団が必要になります。毎年追加される185頭の後検種雄牛の他に日本に娘牛を持つ海外種雄牛（輸入精液由来）のSNP情報を追加することが有効です。さらにリファレンス集団を大きくするため、雌牛を利用することも考えられます。しかし、今回の研究発表からわかったことは、ツーステップ法を利用している限り、数千頭程度の雌牛をリファレンス集団に追加しても、ゲノミック評価値の信頼度向上にはほとんど影響しないとのことでした。これは雌牛の育種価の信頼度が種雄牛と比較して低いことが原因と考えられます。

一方、ワンステップで遺伝評価する手法だと、雌牛のSNP情報を利用することで、ゲノミック評価値の信頼度が向上するとの研究発表がありました。ワンステップ法とは、測定された表現型データとSNP情報を同時に利用し、一度に通常のEBVとともにGEBVやGPIを遺伝評価する手法です。この手法では、リファレンス集団という考え方を意識しなくてもゲノミック評価が可能になります。ワンステップ法には現在２種類あって、ジョージア大学で開発が進められているシングルステップGBLUP（SSGBLUP）とアイオワ州立大学で研究されているハイブリッドモデルまたはシングルステップベイズ回帰法（SSBR）と呼ばれる方法があります。両方法から推定されるゲノミック評価値の信頼度には大きな差異がないようですが、後者の手法はSNP検査済個体が多くても計算可能なので、今後SNP検査個体が増えることを想定すれば、実際のゲノミック評価の利用性が高いかもしれません。

◇ 本当に改良するかは４年後に ◇

ところで、前回の第９回大会ではゲノミック選抜のシミュレーション的研究がたくさんありましたが、今回はほとんど発表がありませんでした。たぶん、ゲノミック選抜は現在もっとも改良が期待できる手法であり、それ以上の新知見がシミュレーション的研究で得られないためと考えられます。なお、今後は「本当にゲノミック選抜によって改良が進むか」という現実の選抜実験の検証段階に進むことになりますが、ゲノミック選抜が開始したのは、最も早い米国で５年前に過ぎず、まだ成果は十分見えていない状況にあります。４年後の11回大会では、ゲノミック選抜の実際の成果がわかってくる頃であり、シミュレーションどおりゲノミック選抜によって遺伝改良量が上昇するのか期待したいところです。

◇ 測定が難しい形質のゲノミック評価 ◇

今回の研究発表では、測定が難しい疾病や飼料効率等の遺伝評価についての研究が多く発表されました。疾病、繁殖および飼料効率のような形質は、選抜によって改善できるのであれば、酪農経営にとって望ましいことですが、測定が比較的難しいことが、フィールドからのデータ収集を難しくしています。例えば、疾病であれば、病名を的確に判断して記録しなければなりませんし、飼料効率の測定は特別な設備を利用するなど多くの費用がかかります。SNP効果によって遺伝的関連性が見つかれば、特定の限られた牛群から収集された情報を基にしてSNPマーカーやQTLから間接的に遺伝評価できます。そのため、今まで評価できなかった形質も選抜対象になる可能性が出てきました。

疾病予防や繁殖性の改善は、酪農経営にとって比較的経費のかかる作業ですが、種雄牛の選定でそれらが少しでも改善されるのであれば、経費節減の手助けになるはずです。そういう意味でゲノミック評価は、これからの酪農経営に影響を及ぼすと考えられました。

ここで、QTLとは経済形質の遺伝子が存在する遺伝子座のこと、SNPマーカーとはQTLそのものではありませんが、QTLの近くにあり遺伝子変化の指標となるSNPのことです。

写真２．午後３時のコーヒーブレイクのようす
６会場に分かれて同時に口頭発表が行われた。

◇ SNP検査と親子関係の判定 ◇

SNP検査では、必ずと言っていいほど、親子関係を再確認します。SNP検査の過程で親子関係に疑いが検出された場合、すでに検査済の同一集団から正しいと推測される親牛を自動的に抽出、正しい親の可能性が高い順にソートされたリストが情報提供されれば、親子判定の作業が容易になります。今回の研究発表では、このような発想から正しい親を見つけるためのコンピュータシステムの開発がすでに始まっていることがわかりました。また、親子判定に利用する遺伝子型をマイクロサテライト（MS）マーカーからSNPマーカーに移行する場合、「今日からすぐに」と言う訳にはいきません。現実的には、SNPからMSへの変換等を行うためにMSとSNPの両方の情報を持つリファレンス集団のデータを蓄積しながら準備を進める必要があります。海外ではすでに大規模な集団が構築され、親子判定が徐々にSNPに移行し始めていることがわかりました。

また、その他の乳牛に関する研究としては、温室ガスの問題、生産寿命の解析、蹄の病気に関する遺伝子の突然変異など興味深い発表があり、乳牛改良に関連する最新の情報を入手することができました。

写真３．会場になったホテルの前庭で記念撮影

（改良部長　河原）

体型審査予定

体型審査の予定は次のとおりです。
最寄りの登録取扱団体にお申し込み下さい。

日程　１月14日～１月24日

□上川地区
　全管内
□後志・渡島・檜山地区
　全管内
□十勝地区
　新得・清水・芽室・鹿追・士幌・上士幌
□網走地区
　丸瀬布・遠軽・上湧別・湧別・芭露・生田原・白滝

日程　１月27日～２月７日

□石狩地区
　全管内
□空知地区
　全管内
□十勝地区
　豊頃・浦幌・本別・足寄・陸別
□釧路地区
　釧路・阿寒・鶴居・幌呂・白糠・音別・弟子屈
□根室地区
　中標津・計根別
□網走地区
　紋別・上渚滑・雄武・興部・滝上・西興部

日程　２月12日～２月21日

□胆振・日高地区
　全管内
□十勝地区
　帯広・川西・大正・音更・木野・高島・池田
　幕別・札内
□根室地区
　根室・別海・西春別
□網走地区
　網走・佐呂間・常呂・東藻琴・斜里・小清水
　清里・女満別・美幌
□宗谷地区
　全管内

第25回組合員女性研修会

鮮やかな紅葉も終わり、冬の訪れを感じる11月6日～11月7日の2日間、全道各地から組合員のご婦人26名の参加をいただき、『第25回組合員女性研修会』を開催いたしました。

【㈲レークヒル牧場 】洞爺湖町

まず先に、研修で訪れた牧場とその内容ついて報告いたします。

㈲レークヒル牧場は、道内でも有数の観光地である洞爺湖の西側に位置し、経産牛58頭、育成39頭を飼養、放牧にこだわった飼養形態から、「草つくりコンクール」、「全国草地畜産コンクール」などで、数々の賞を受賞されています。また、乳製品の製造販売、酪農体験など、消費者との交流の場も創出しており、国道に面した牧場直営の販売所は、この日もたくさんの観光客で賑わっていました。

牧場に到着すると、場長の塩野谷孝二さんにお出迎えいただき、牧場の概要についてご説明いただきました。㈲レークヒル牧場は、経営主の塩野谷幸一氏が塩野谷牧場として開業、その後、昭和51年に㈲レークヒル牧場と改名し、会社を設立しました。平成11年に放牧を開始、放牧を主体として高栄養の粗飼料を確保し、濃厚飼料の制限給与、粗飼料の質と個体観察を総合的に考慮した飼料設計を行っています。昨年度の出荷乳量は492t、経産牛一頭当たり9,504kgの生産量を維持しながら、平均分娩間隔は388日という、高泌乳とすばらしい繁殖成績の両立を実現しています。

この日は、朝から比較的暖かく穏やかな日和でしたが、到着するとすぐに雨が降り始め、メインとなる放牧地の見学は雨の中かと危ぶまれましたが、幸い塩野谷場長の説明が終わると雨がやみ、放牧地へと案内していただきました。放牧は、この日で最後との説明でした。放牧地に到着すると、30頭ほどの牛が人なつこく近づいてきて、柵を挟んで牛を見ながら（牛たちに見られながら）の説明となりました。草地の作付け状況は、放牧地13.5ヘクタール、採草地45.5ヘクタール、兼用地を2ヘクタール所有し、その他、サイレージ用のトウモロコシ畑が11ヘクタールあるとのことです。草地は、土壌検査に基づいた施肥設計、グランドホッグで土に空気を入れるなど、化学的、物理的な特性を組み合わせた総合的な面から、草地を診断し管理を行っていました。参加者からの質問も出され、活発な質疑応答が交わされていました。ご自分の農場と比較されながらの質問が多く、少しでもなにか良い情報を持ち帰って、自分の牧場で活かしたいという気持ちが窺えました。

放牧地での説明が終わると、牧場直営の販売所へ行きました。販売所では、アイスクリーム、プリン、シュークリーム、チーズなど、様々な乳製品が販売され、その場で飲食することも出来ます。乳製品がほとんどで、賞味期限が短いこともあり、お土産と言うよりは、その場で食して行かれる方が多かったようですが、美味しいアイスクリームやプリンには、みなさん自然に笑顔がこぼれていました。

（総務部課長　後藤）

【豊平峡温泉名物　インドカリー】札幌市

札幌駅集合後、皆さん一年ぶりの再会で話に花を咲かせながら、バスは豊平峡へと向かいました。

今年、ランチ会場に選んだのは、豊平峡温泉名物「インドカリー」。豊平峡温泉と言えば？「カリー」と合言葉のように、名物のカリーを食べずには帰れません。温泉とカリーのセットは大人気で、この日も平日にも拘らず、温泉と食事に来たお客さんで賑わっていました。店内はスパイスの香りが広がっており、入口を入ると直ぐにガラス張りの厨房でインド人の料理人達が専用の窯でナンを次々と焼いておりました。皆さんの目の前にカリーとナンが置かれると「わぁ〜ナンが大きい！！これ一人分？」と驚いた様子でしたが、皆さん一口も残さずペロリと召し上がっていました。初めてナンを口にした方も多く、インド人が作る本場のカリーと焼き立ての香ばしいナンを囲んで、とても美味しい楽しい時間を過ごしました。

また、ここ豊平峡温泉は、100%源泉かけ流しの鮮度高き温泉で、下からくみ上げた源泉に「薄めず、沸かさず、循環せず」をモットーに心も身体も癒される温泉です。日本最大級を誇る三つの露天風呂は四季折々の景色が堪能でき、夜はライトアップされ幻想的なロケーションが楽しめます。

【定山渓万世閣　ホテル ミリオーネ】札幌市

今回の宿泊先は、定山渓にある『定山渓万世閣ホテルミリオーネ』。北海道を代表する温泉街の一つである定山渓は札幌市街から１時間弱。歴史ある温泉街です。周辺には４年前に研修会宿泊先となった小金湯温泉や、今回の昼食会場となった豊平峡温泉があり人々を癒しています。また、四季折々の美しい景色に出会えるのも魅力のひとつです。懇親会では昨年大好評だった、参加者全員でプレゼント交換を行い、心のこもったお手紙付のプレゼントや、ご当地名産など、女性目線の優しさあふれるプレゼントに和やかなムードに包まれ、終始笑いの絶えない懇親会となりました。

日に日に寒さを増し、雪がちらつく二日目の朝、皆さんご自宅へのお土産を手に札幌駅へと向いました。

あっという間の二日間でしたが、この研修会が新たな出会いの場となり、この北海道の酪農を多いに盛り上げて頂く力になればと思います。

同業者として、良き仲間であり、良きライバルでもある。そんな刺激し合える関係がこれからも築かれていけば幸いです。事務局として、皆様の元気なお姿と素敵な笑顔に出会えた事に感謝しております。

皆様にご協力いただいたアンケートを基に、今後の研修をより良いものにと考えて参りますので、次回またのご参加を心よりお待ち申し上げております。まだ参加された事の無い方や、興味をお持ちの方は是非お気軽にご参加ください。

最後になりましたが、この研修会の取りまとめにご協力頂きました各地区協議会長様はじめ関係者の方々に深くお礼申し上げます。

（総務部書記　天谷）

第14回全共北海道大会に想いを込めて…　vol.6：北海道大会が担うものとは何か!!

【自立・後継・手本を柱に】

「よしこの牛で、日本一を取るぞ」そう心に誓い、そして実現する日が刻一刻と近づいてまいりました。

一日の休みもない乳牛改良の成果を発揮する大会まで、ついに一年を切りましたので今月号はおさらいの意味も含めまして大会の趣旨などについて記述したいと思います。

はじめに

昭和26年、神奈川県を皮切りに開催されてきた乳牛の改良度を競う大会、いわゆる全共は以後５年置きに開催され過去12回すべて府県（12県）での開催であり、「酪農王国」と自負する北海道にこの開催が承認されたのは、平成17年６月のことで初回から優に60年を越えての開催となることでありました。

こうして第13回大会は平成22年10月に開催することが決定し、高橋知事を会長とする実行委員会も立ち上がり準備を重ねていた矢先よもやの口蹄疫、そして翌年の東日本大震災は被災した同じ牛屋仲間の事を思うと、この大会の「中止」を決断したことは誰もが疑問を抱かぬ常識ある判断ではなかったでしょうか。

さて、無念の思いが再び実現されることとなったのは、次期開催までの期間が短かったことは勿論のこと、既に北海道は開催準備に着手しており牛舎施設等が完備されていたこと、また、日ホ府県役員各位が、一度は「共進会の聖地」（このように表現している）である安平町の共進会場でどうしても！！という強い思いがあったからに他ならない。

中止となった第13回大会との違い

【会場分離・消毒の徹底】

共進会場の構想として、第13回大会は安平会場の敷地面積97,000㎡（現状は106,400㎡）の中で、共進会は勿論のこと酪農資材展示・酪農歴史展のほか、一般消費者を対象とした「ふれあい牧場」や牛乳乳製品の消費拡大イベント、そして北海道特産物の販売や飲食ブースもこの会場に押し込み、開催期間４日間の予定来場者は10万人を想定していた。

14回大会が再びこの地で開かれる事が決定し、改めて前回構想を検証した時に最優先の課題として、防疫対策の徹底に照準を合わせることが必須との判断でした。このことは取りも直さず13回大会が延期となった法定伝染病に端を発しており、周辺諸国は今もって終息の方向に向かっていないことからです。

また、狭い面積の中での集中型は、駐車場の確保と管理そして多くの巡回バスが必要となり費用を圧迫していたことも事実です。

これらのことから、14回大会は和牛長崎全共の防疫体制を参考に、共進会の出品者・出品関係者・酪農畜産関係者などこれらに関係する方々は安平町の「本会場」に、そして酪農の理解醸成や牛乳乳製品の消費拡大・北海道の物産・食材展などは旧北海道庁「赤レンガ広場」を中心とした「札幌会場」で開催し全体的に余裕をもたせ、そして防疫体制も安平町の「本会場」に来場する人達は全員が、靴底・手洗い・全身細霧の消毒スポットを通過して入場してもらうという仕切りの中で、両会場が効率的でしかも効果の上がるものとなるよう変更いたしました。

14回大会の趣旨（特色）

① 国産種雄牛による全共

日本酪農の父と讃えられる宇都宮仙太郎翁が、ホルスタイン純血種を50頭余りアメリカから導入して既に100年以上が経過しております。以後も酪農家は先進国の名血一族の生体導入を続けており、今や我が国はそれらの血液が基礎となって牛群を形成し、その成果は特に乳量にあっては世界レベルでも高い水準となるに至りました。

長い歳月と投資を重ねてきた結果は充分認めつつ、今後は我が国独自の改良に本腰を入れる時期に来たのではないでしょうか。その一端として北海道が平成18年より取り入れている後代検定娘牛の部は、それを利用する生産者にとって、あるいは国産種雄牛を生産する酪農家にとっても意義のある部門であり、ひいてはAI事業体や国にとっても何れ外貨を取得できる第一歩となることから、栃木大会での後代検定娘牛の展示から、さらに発展させて今大会では未経産クラス２部門、経産クラス２部門を新設することといたしました。

なお、全共主催者としては今後もこの後代検定娘牛クラスについては、当分のあいだ継続して行くことを確認しております。

② 次代を担う農業高校（生徒）の参加と教育・育成

背に“牛一番”2014第６回九州連合共進会に出品の熊本県菊池農校

これも全共としては新たな試みとなりますが、高等学校特別枠を設けて一般割当枠および後代検定出品枠で出品出来なかった乳牛を、１校１頭だけ出品出来るというもので全国20頭の枠を設けました。近年、道内はもとより各府県において農業高校からの共進会出品が非常に増えてきており、その勢いは酪農家出品牛を凌ぐ成績を上げている高校も散見されます。農業高校が乳牛改良に生徒を導き、その生徒達が実習牧場の乳牛を仲間達で管理し、大きな目標に向かって日々努力を重ねることの意義は、生徒達が大人になって自分が経営者や酪農指導者等になった時に大いに役立ち、反面必ずぶつかるであろう…一人では生きていけない人間の弱さを知った時、過去の共進会で知り合った多くの仲間達がいたことを思い出すに違いありません。

このような事で本大会では、時代を担う生徒達を対象に「牛の見方と審査講評」「リードマンコンテスト」「毛刈り講習会」など教育と育成の行事は勿論のこと、全国20校から集まる生徒達による交流会「ジンギスカンパーティ」も企画しております。もしかして、ここで将来の伴侶を見つけるのかも？

③ お金の掛からない全共開催の手本

10年前（栃木大会）15年前（岡山大会）の全共は６億円という莫大な予算の中で開催されました。ご承知の通りこれまでの全共は、「さら地に仮設の建物を建ててさら地に返す」というものでありお金がかからない訳がありませんが、主催者である日ホ役員の方達はこれからの全共を見据えて「お金の掛からない全共開催の手本」を北海道大会で示して欲しいとの意向でありました。

従来、全共開催の一番の費用としては、仮設の出品牛舎と審査場およびそれに付随するインフラ設備に予算の多くを費やしました。そこで北海道は過去に例のない既存の市場施設を利用することで大幅な費用削減を図ると共に照準を共進会に絞りました。原点に戻りこの大会は「酪農家の祭典」であり主役は酪農家であることに立ち返ったのであります。

ただし、酪農家の汗の結晶である牛乳・乳製品の消費拡大につながる酪農後継者の努力を目の当たりにしてもらうために「札幌会場」の道庁「赤レンガ広場」で高校生によるリードマンコンテストのデモンストレーションを行う予定で、これも過去例のないことではありますが、理解醸成のためにはお金を惜しまない企画も計画しております。

なお、今回の全共より開催地の負担軽減の一環として、主催者である日ホ登録協会が３千万円の特別積立をして実行委員会と共に運営に当たって行くことになった事もいままでとは変わった点であります。

まとめ

時代の流れと共に全共の規則や運営はその時代に即応したものでなければなりません。北海道大会は今抱えている多くの課題の一部をテーマとして取り上げ、未来に続く共進会となることを目指しております。登録・審査・検定を基礎に後継牛を育て種雄牛も作る酪農家の仲間が、またこの次の全共で笑顔で会えるように！！

（専務理事　齋藤眞澄）

第９回理事会の概要

平成26年10月27日(月)午後１時８分
当　組　合　３　階　会　議　室

【報告事項】

１．前回理事会(７/25)後の主な処理事項について

７/26-28　全共協賛依頼(道東)
28　第１回牛ゲノム選抜手法検討会
北海道乳牛改良委員会専門委員会
29-31　全共協賛依頼(道東)
８/４　日胆地区組合員協議会懇談会
５－８　第８回乳牛改良・審査のサクセッサープログラム後期
16-25　世界応用遺伝学会第10回専門委員会
９/７－９　日ホ内部審査研究会
９-11　日ホ中央審査研究会
18　後代検定推進会議
27-28　第16回北海道総合畜産共進会(乳用牛部門)
10/８　北海道乳牛改良委員会専門委員会
15　共進会ジャッジ研修会
16-17　上期監査
17　JHBS上期監査
26　2014北海道ホルスタインウインターフェア
24　総務委員会
経済企画委員会

２．業務及び収支の状況について

３．上期監査の報告について

４．平成26年度市場施設工事実地状況について

【協議事項】

１．上期監査報告に対する考え方について

２．組合員の加入・譲渡・脱退について

期首:985名　加入:21名　脱退:７名　現在:999名

３．2015北海道ホルスタインナショナルショウについて

４．次回両委員会・理事会開催日程について

・総務委員会　12月12日(金)14時30分
・経済企画委員会　12月19日(金)14時30分
・三役・委員長会議　１月23日(金)13時
第10回理事会　１月23日(金)14時

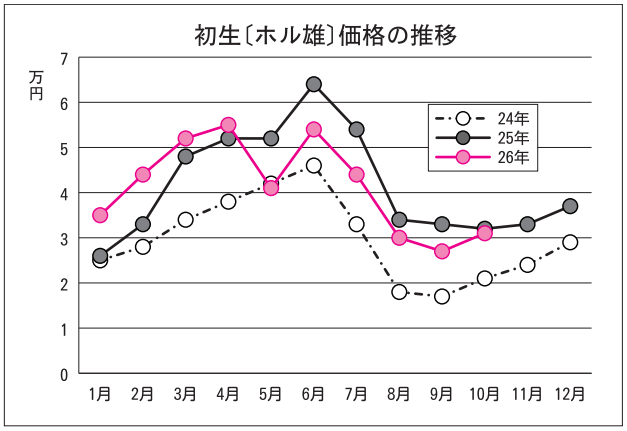
北海道ホルスタイン農協　家畜市場成績

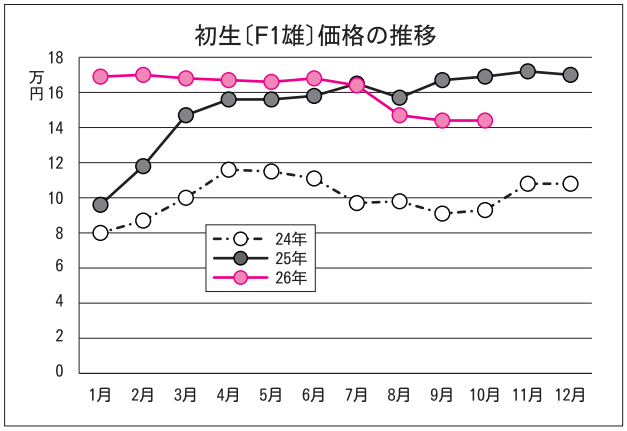
初生〔ホル雄・F1雄・F1雌〕価格の推移

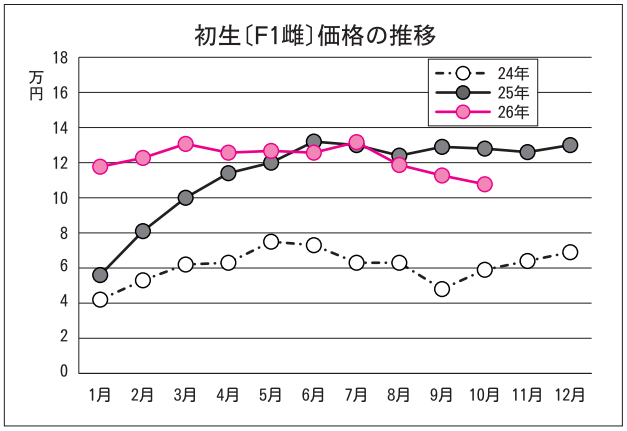
（単位：万円）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
ホル雄	3.5	4.4	5.2	5.5	4.1	5.4	4.4	3.0	2.7	3.1		
F1雄	16.9	17.0	16.8	16.7	16.6	16.8	16.4	14.7	14.4	14.4		
F1雌	11.8	12.3	13.1	12.6	12.7	12.6	13.2	11.9	11.3	10.8		

（注）価格は各月でセリが成立したものの税抜き平均価格です







最近の家畜市場成績（11月18日開催）

種　類	内　訳	出場頭数	成立頭数	最高価格	最低価格	平均価格
乳用牛	育成牛	2頭	2頭	60,000円	35,000円	51,300円
	初妊牛(88%以上)	－	－	－	－	－
	初妊牛(88%未満)	1	1	339,000	339,000	366,120
	経産牛	1	1	170,640	170,640	170,640
初生犢	ホル雄	111	110	75,600	1,080	26,617
	ホル雌	1	1	150,120	150,120	150,120
	ホルフリー	3	3	1,080	1,080	1,080
	黒毛雄	1	1	351,000	351,000	351,000
	黒毛雌	－	－	－	－	－
	F1雄	46	45	246,240	97,200	171,096
	F1雌	49	49	178,200	43,200	112,144
	乳用種雄	－	－	－	－	－
	乳用種雌	－	－	－	－	－
	肉専用雄	－	－	－	－	－
	肉専用雌	－	－	－	－	－
肉用牛	1年以上ホル雌牛	87	87	300,240	77,760	170,752
	その他肉用牛	49	49	757,080	32,400	386,927
馬		12	12	378,000	86,400	245,700
緬羊•山羊		－	－	－	－	－
合　計		363	361	757,080	1,080	149,665

乳牛予想相場表

（平成26年12月予想）

規格	月　齢	中	上
血統濃度88%未満	6～8カ月	22～26万円	23～28万円
	9～11〃	23～28	25～30
	12～14〃	25～33	26～33
	初妊牛	45～50	47～52
同上概ね88%以上	6～8カ月	22～26	23～28
	9～11〃	23～28	25～30
	12～14〃	25～33	26～33
	初妊牛	47～52	48～53
成績証明娘牛	6～8カ月	23～28	25～30
	9～11〃	25～30	26～32
	12～14〃	28～33	28～35
	初妊牛	48～53	53～

（注）初妊牛は2～3月に分娩するもの。

ひと こと

6月に夫婦で東京に行く機会があった。行き先は妻に任せていて、今回は「フクロウカフェ」に行きたいと言い出した。テレビの情報番組で取り上げられていたようで、フクロウと触れ合うことで癒し効果があるとか幸福を呼ぶとかで人気らしい。そのお店では、フクロウを手や頭に乗せる事もできて、何やら「ラッキーちゃん」という名のフクロウを頭に乗せて糞をかけられた客が宝クジに当たったとか…動物が苦手な妻もフクロウは平気なようで、インターネットで調べて二人で行って来た。

開店の2時間前に当日入店の受付に並ぶため、早めに着いたが既に30人位並んでいた。外国人も並んでいたのには驚いた。

約束の時間に再度お店に行って入店した。最初の15分はフクロウとの接し方のお話である。

このお店のフクロウ達は孵化した時から人工飼育されていて人間に慣れている（孵化直後、初めての見たものを親と思う、インプリントと言うらしい）。フクロウを乗せたり、降ろしたりするのは店員が行う。フクロウを乗せている時は脚に付いているリード線を絶対に離さない。（リード線を離して飛ばしてしまうと壁に激突してケガをしたり、床にあるものを餌と勘違いして食べたりする）。フクロウを触る時は撫でるようにする。（指先で羽を刺すようにしてしまうと、羽が痛んでハゲてしまう）

説明が終わると触れ合いタイムが始まる。最初は20㎝位の小型のフクロウを店員にお願いして人差し指に乗せてもらった。「カワイイ…」。恐る恐る撫でてみると「柔らかい…」。妻とデジカメで撮りあって、今度は大型のフクロウを腕に乗せてみる。ズッシリと重い。羽をバタバタされ、少し焦ったがリード線はシッカリ握る。そして、噂の「ラッキーちゃん」を頭に乗せてみた。幸か不幸か糞はされなかったが、記念写真も撮ってすっかり楽しんだ。一通り触れ合ってから、ふと壁の張り紙を見てみると、このお店ではフクロウを販売している。インプリントものなので17万円以上する。店員に聞いてみると専用の餌も販売しているとのこと。

動物嫌いの妻もまんざらでもない様子。「北海道から来ました。室温は冬が18度、夏は30度位になるけれど、飼育できますか？」と聞いたら、「室温は24～25度位で一定していた方が良い」と苦笑いされた。

あれから5ヶ月経過した。宝クジは当選していないが、妻はコンサート等のチケットを購入したら良い席が当たっているようで、これはフクロウのおかげかもと喜んでおります。

そして最近、家の居間にエアコンを付けた。果たして我が家にフクロウはやって来るのだろうか…

Y.F

頒価100円（組合員の購読料は賦課金に含まれています）